令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人長岡市芸術文化振興財団
施設名	長岡リリックホール
内定額	6,100　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
普-01	ホノルルHEARTS & 長岡少年少女合唱団 ジョイントコンサート	令和7年6月14日	長岡リリックホール コンサートホール
普-02	リリック子ども音楽館　0歳からの東京フィルわくわくコンサート	令和7年7月27日	長岡リリックホール コンサートホール
普-03	東京フィルアウトリーチ コミュニティコンサート	令和7年5月26日・27日 令和7年9月16日・17日	市内コミュニティセンター等
普-04	地元アーティスト　学校アウトリーチ	令和7年５月26日～ 令和7年11月21日	市内小中学校
普-05	0歳からのミニコンサート	令和8年2月6日	長岡リリックホール 第1スタジオ
普-06	小山裕幾フルートワークショップ	令和7年8月18日～19日	長岡リリックホール コンサートホール
普-07	第22回リリックホールコーラスフェスティバル	令和7年12月14日	長岡リリックホール コンサートホール
普-08	リリック・ジュニアフェスティバル2025	令和7年12月21日	長岡リリックホール コンサートホール
普-09	仲道郁代プロデュース 第7回「三善晃記念 響き合うピアノ」	令和8年1月10日・11日 令和8年3月7日・8日	長岡リリックホール コンサートホール
普-10	東京フィルハーモニー交響楽団 中学生楽器ワークショップ	令和8年2月22日	各中学校音楽教室
普-11	文学座 演劇活性化事業	令和7年9月10日～11月16日	長岡リリックホール シアター、他
普-12	長岡少年少女合唱団育成事業	通年	長岡リリックホール 第1スタジオ、他
普-13	ジュニア・ミュージカル育成事業	通年	長岡リリックホール 第1スタジオ、他
普-14	ジュニアストリングオーケストラ育成事業	通年	長岡リリックホール 第1スタジオ、他
普-15	1日限りの吹奏楽部in長岡	令和8年3月20日	長岡リリックホール・全館

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	43	37	38
	公演事業	27	18	19
	（内、本助成対象事業本数）	10	8	0
	人材養成事業	10	1	0
	（内、本助成対象事業本数）	8	0	0
	普及啓発事業	6	18	19
	（内、本助成対象事業本数）	5	13	15
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　記入してください			

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	447	427	381
	ホール名：コンサートホール　座席数：700席	235	222	194
	ホール名：シアター　座席数：450席	212	205	187
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	29,867	21,687	21,353
	公演事業	21,045	12,399	13,220
	人材養成事業	1,307	311	0
	普及啓発事業	7,515	8,977	8,133
	共生社会事業			
	その他　内容：	0	0	0
	貸館事業入場者・参加者数	61,038	62,533	66,232
	その他　内容：記入してください	0	0	0
	計	90,905	84,220	87,585
開館日数		346	341	345
施設の利用可能日数 （＝365－（保守点検日数+休館日数））		346	341	345
施設の利用日数		322	316	344
施設の利用率(%) （＝利用日数/利用可能日数）		93.1%	92.7%	99.7%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	18	19	9,925	1	13	1	1	1	0	1
	共催・提携公演（※2）	9	10	11,120	2	4	1	1	1	0	0
	貸館公演	280	280	61,000	16	185	36	1	0	0	42
	計	307	309	82,045							
令和6年度	主催公演（※1）	12	13	6,907	2	8	0	1	1	0	0
	共催・提携公演（※2）	6	6	5,492	0	3	1	1	1	0	0
	貸館公演	288	291	62,533	24	177	43	3	0	0	41
	計	306	310	74,932							
令和7年度	主催公演（※1）	11	11	5,805	3	6	0	1	1	0	0
	共催・提携公演（※2）	8	8	7,415	1	5	0	0	2	0	0
	貸館公演	290	296	66,232	18	187	37	0	1	0	47
	計	309	315	79,452							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人長岡市芸術文化振興財団
施設名	長岡リリックホール
内定額	6,100　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業			

普及啓発事業	【指標１】リピーター率 （対象事業　普-2,5,7,8,9） ※来場者アンケートによる回答の割合 【指標 2】全事業における参加者の反応 （対象事業 普-1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,15） ※参加者アンケートによる回答の割合 【指標 3】参加満足度 （対象事業　普-全事業） ※参加者アンケートによる回答の割合	【指標１】対象事業におけるリピーター率 40%以上 【指標２】「また実施してもらいたい」との回答が 70%以上 【指標３】「参加した内容に満足」との回答が 75%以上	【指標１】リピーター率 普-2/32.8% 普-5/29.8% 普-7/53.3% 普-8/44.0% 普-9/41.6% 【指標２】「また実施してもらいたい」との回答の割合 普-1/100% 普-2/98.5% 普-3/90.9% 普-4/80.3% 普-5/98.5% 普-6/95.7% 普-7/96.8% 普-8/100% 普-9/100% 普-10/98.6% 普-11/100% 普-12/97.2% 普-13/79.2% 普-14/72.3% 普-15/87.8% 【指標３】「参加した内容に満足」との回答の割合 普-1/94.3% 普-2/94.7% 普-3/92.3% 普-4/91.9% 普-5/97.8% 普-6/100% 普-7/95.8% 普-8/100% 普-9/100% 普-10/100% 普-11/100% 普-12/100% 普-13/95.9% 普-14/87.1% 普-15/100%
共生社会事業			

（※３）・（※４）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	

人材養成事業	
自己評価	

普及啓発事業	
自己評価	【指標１】リピーター率については、来場者アンケートにおいて 40%以上の回答を目標に設定し、対象の 5 事業において 3 事業で目標を達成することができた。未達成となった 2 事業（普-2、普-5）はいずれも「0 歳から入場可能」という特性を持つため、来場者の構成や参加動機が他事業と異なっていた点が影響したと推測される。具体的には、乳幼児を含む家族層は、子どもの成長段階や生活リズムに応じて参加できる催しが変化しやすく、同一事業への継続的な参加（リピート）につながりにくい傾向がある。また、「初めての体験機会」として来場する割合が高く、新規来場者の比率が相対的に高くなることから、結果としてリピーター率が伸びにくくなったものと考えられる。 【指標２】全事業における参加者の反応については、参加者アンケートにおいて「また実施してもらいたい」との回答が 70%以上となることを目標に設定し、全 15 事業すべてにおいて当該目標値を上回り、事業全体として高い満足度と継続実施への期待が得られた。この結果から、各事業が参加者のニーズや関心に適切に応え、内容の質や体験価値の面で十分な成果を上げたことがうかがえる。特に、多くの事業で 90%以上という非常に高い評価を得ている点は、企画内容の魅力や運営体制の適切さが参加者に強く支持されたことを示している。また、初参加者を含む幅広い層に対しても満足度の高い体験を提供できたことにより、文化芸術活動への関心喚起や参加意欲の向上につながったと考えられる。さらに、「また実施してもらいたい」という意向は、単なる一過性の満足にとどまらず、今後の継続的な参加や地域における文化芸術活動の定着・発展に寄与する重要な指標である。本結果は、事業を通じて文化芸術の魅力が効果的に伝達され、参加者との良好な関係性が構築されたことを示しており、地域における文化振興の基盤形成に資する効果が得られたものと考えられる。 【指標３】参加満足度については、参加者アンケートにおいて「参加した内容に満足」との回答が 75%以上となることを目標に設定し、全 15 事業すべてにおいて当該目標値を大きく上回り、概ね 90%以上、さらに複数の事業で 100%という極めて高い評価を得る結果となった。この結果から、各事業において提供したプログラム内容が参加者の期待や関心に十分応えるものであり、質の高い文化芸術体験を提供できたことが明らかである。また、満足度の高さは、文化芸術に対する理解や興味の深化を促し、今後の継続的な参加意欲の醸成にも寄与する重要な成果である。特に、複数の事業で満足度 100%を達成している点は、事業ごとの特性に応じた適切な企画設計と運営が行われたことを示しており、幅広い層に対して効果的に文化芸術の魅力を伝えることができたと評価できる。 以上より、本事業は参加者に対して高い付加価値を提供し、文化芸術活動への関心喚起および理解促進に大きく寄与するとともに、地域における文化芸術の振興と定着に資する成果を十分に上げたものといえる。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
【指標１】姉妹都市の異文化や歴史に興味が深まったと回答する割合 （対象事業　普-1） ※参加者アンケートによる回答の割合	【指標１】姉妹都市の異文化や歴史に興味が深まったと回答する割合 80%以上	【指標１】姉妹都市の異文化や歴史に興味が深まったと回答する割合 参加者アンケート設問に回答／100%

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	本事業では、姉妹都市であるホノルルの子どもたちの受入れに先立ち、長岡少年少女合唱団において事前にホノルルの文化に関する学習機会を設けるとともに、長岡市国際交流協会の協力のもと、姉妹都市交流の歴史や経緯について理解を深める取組を実施した。 その結果、参加者アンケートにおける「姉妹都市の異文化や歴史に興味が深まった」と回答した割合は100%となり、目標値である 80%を達成した。特に、事前学習を通じて交流への関心が高まり、受入れ時の交流活動においても主体的な関わりが見られるなど、異文化理解の促進という点で一定の成果が認められる。 以上より、本指標については十分に達成したと自己評価する。今後は、事後の振り返り機会をさらに充実させることで、より高い理解度と関心の定着を図るものである。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・（文化拠点）地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・（地域連携）地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・（児童生徒への機会提供）次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
【指標1】市民文化団体の参画数、または個人参加者数 （対象事業　普-7,8） 【指標2】新たなコミュニケーションの創出状況 （対象事業　普-6,9,11,15） 【指標3】学校アウトリーチ体験を経験した児童・生徒が学校の授業以外でも芸術文化の体験を希望する割合。 （対象事業　普-4,11） 【指標4】貸館業務における利用者の満足度	【指標1】当該事業で 25 団体 500 人以上の参加者を得る。 【指標2】参加者へのアンケートで「新しい仲間ができた」と回答する人が全体の 60%以上で目標達成。 【指標3】参加者へのアンケートで「学校の授業以外でも芸術文化を体験したいと思う」と回答する人が全体の 70%で目標達成。 【指標4】貸館利用者へのアンケートにおいて満足度（5 段階評価の上位 2 段階の項目を回答した割合）、80%以上で目標達成。	【指標1】市民文化団体の参画数は、 普-7/ 24 団体（390 人） 普-8/　3 団体及び個人参加（110 人） 【指標2】「新しい仲間ができた」との回答の割合 普-6/67% 普-9/100% 普-11/38% 普-15/77.6% 【指標3】「学校の授業以外でも芸術文化を体験したいと思う」と回答 普-4/68.7% 普-11/88.2% 【指標4】満足度（5 段階評価の上位 2 段階の項目を回答した割合） 81%の回答を得た。

（※4）・（※5）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	【指標１】（市民文化団体の参画数および個人参加者数）については、目標を「25 団体・500 人以上」と設定した。実績は、普-7 において 24 団体 390 人、普-8 において 3 団体および個人参加の合計で 110 人となり、合わせて 27 団体・500 人の参加を得た。団体数および参加者数ともに目標水準に到達しており、市民文化団体の参画促進という観点からは概ね計画どおりの成果が得られた。一方で、事業別に見ると参加規模にばらつきが見られることから、今後は事業間の連携や広報手法の工夫により、より安定的な参加促進を図る必要がある。 【指標２】（新たなコミュニケーションの創出状況）については、「新しい仲間ができた」と回答した割合を 60%以上とすることを目標とした。実績は、普-6 で 67%、普-9 で 100%、普-15 で 77.6%と多くの事業で目標を上回った一方、普-10 では 38%にとどまった。全体としては、参加者同士の交流や新たなつながりの創出という点で一定の成果が認められるが、事業内容や運営手法によって成果に差が生じていることが明らかとなった。今後は、参加者同士の交流を促進するプログラム設計やファシリテーションの強化により、全事業で安定的に成果を上げることが課題である。 【指標３】（児童生徒の継続的な芸術文化体験意欲）については、「授業以外でも芸術文化を体験したい」と回答する割合を 70%と設定した。実績は、普-4 で 68.7%とわずかに目標に届かなかったものの、普-11 では 88.2%と高い水準を達成した。全体としては、児童生徒の芸術文化への関心喚起という目的に対して一定の効果が認められるが、プログラム内容や体験の質によって意欲喚起の度合いに差があることが示唆される。今後は、より主体的・継続的な関与につながる体験設計やフォローアップの充実が求められる。 【指標４】（貸館業務における利用者満足度）については、満足度 80%以上を目標とした。実績は 81%であり、目標を達成した。施設利用に関するサービス水準は概ね適切に維持されており、地域の文化活動を支える基盤としての役割を果たしていると評価できる。引き続き、利用者ニーズの把握とサービス改善に努め、さらなる満足度向上を図る。 以上の結果から、本事業は概ね目標を達成し、地域文化の振興およびコミュニティ形成に寄与したと評価できる。一方で、一部指標において目標未達や事業間のばらつきが見られたことから、今後は事業設計や運営手法の改善を通じて、より均質かつ高い成果の実現を目指す必要がある。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
【指標１】若年層の利用者数（U－25 チケット販売数）	【指標１】前年度比 10%増で目標達成	【指標１】U－25 チケット販売数の割合 2024 年度／全販売数の 10.1% 2025 年度／全販売数の 10.3%
【指標２】子育て世代対象事業の入場者数	【指標２】600 人以上の集客で目標達成	【指標２】子育て世代対象事業（0 歳から入場可能）の入場者数 普-2/584 人 普-5/85 人 合計 669 人

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	【指標 1】U-25 チケット販売割合については、2024 年度の 10.1%に対し、2025 年度は 10.3%となり、増加は見られたものの、前年度比 10%増という目標には達しなかった。若年層の来場は一定程度促進されたと考えられるが、伸び率は限定的であり、広報手法やプログラム内容のさらなる工夫が必要である。 【指標 2】子育て世代対象事業（0 歳から入場可能）の入場者数は、合計 669 人となり、目標である 600 人を上回り達成した。乳幼児を含む来場が可能な環境整備やプログラム提供により、これまで来場が難しかった層へのアプローチが実現でき、アクセシビリティの向上に寄与した。 以上より、本事業は特にアクセシビリティの観点において成果を上げた一方、若年層のさらなる取り込みについては課題が残る結果となった。今後は、より多様なプログラム展開や効果的な情報発信により、幅広い層の参加促進を図っていく。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※2）
	・ ・ ・

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

普-1「ホノルル HEARTS＆長岡少年少女合唱団 ジョイントコンサート」においては、終戦 80 年という節目に「平和」を共通テーマとして実施したことにより、文化芸術を通じた国際交流および平和意識の醸成という点で大きな成果が得られた。
本公演では、姉妹都市であるホノルルとの継続的な交流関係を基盤に、子どもたちが合唱という表現活動を通じて平和への思いを共有・発信した。両団体が合同で歌声を重ねることで、言語や文化の違いを超えた一体感が生まれ、出演者のみならず来場者に対しても強いメッセージ性を持つ舞台となった。このような体験は、参加した子どもたちにとって国際理解を深めるとともに、多様性を尊重する姿勢や協働する力を育む貴重な機会となった。
また、新型コロナウイルス感染症の影響により一時停滞していた交流が再開され、再会を喜び合う姿は、関係者および来場者に深い感動を与えた。さらに、公演後にホノルル HEARTS の生徒から「人生で最大のサプライズであった」との感想が寄せられるなど、本事業が参加者にとって非常に印象深く、心に残る体験となったことがうかがえる。
以上より、本公演は文化芸術を通じた平和発信と国際交流の促進に寄与するとともに、次代を担う子どもたちの豊かな感性と国際的視野の育成に資する成果を上げたものといえる。また、地域においても国際交流の意義や文化芸術の価値を再認識する契機となり、今後の継続的な交流と文化振興につながる基盤を形成した点においても意義深い取組であった。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	文化芸術振興費補助金による 助成金：6,100,000円（内定額） その他協賛金：1,250,000円	広報誌やメルマガの配信のほか、長岡市の他機関の広報誌（国際交流担当課）なども活用。
目標(値)（※2）	更に100万円の獲得を目指す。	
実績(値)	令和7年度は現状から更に250万の助成金を獲得した。	
団体の自己評価	当初計画に基づく予算の妥当性を維持しつつ、外部資金の獲得に努めた結果、財源の多様化および強化が図られたと評価できる。今後も継続的に助成金や協賛金の獲得に取り組み、より安定的かつ持続可能な事業運営を目指す。	

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	主にジュニア育成事業の合同演奏会等を実施している。	毎月、事業の実施状況等を報告しており、適切な意思疎通を図っている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	現状、配置されていない。	現状、配置されていない。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	各部署により、情報収集と統括を行う人材により育成に努めている。	総務、事業、貸館など、部署により役割分担を行っている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	やや偏りがみられる。	現状、30%に達していない。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	長岡市の規定に基づき、財団でも常に制度導入に努めている。	WEB による研修等、必要により実施している。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	長岡市の規定に準じるかたちで行っている。	財団の財務規則に基づき、適正な契約を交わしている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
各指標の達成状況を見ると、参加者満足度や継続実施への期待、子育て世代の参加促進、国際交流における理解深化、施設利用満足度など、多くの項目において目標値を上回る高い成果が得られた。特に、参加者満足度および「また参加したい」とする意向が全事業で高水準を示したことは、事業内容の質および運営の適切性を裏付けるものであり、文化芸術の魅力を効果的に伝えるとともに、継続的な参加意欲の醸成に寄与したと評価できる。また、0 歳から参加可能な事業の実施等により、従来参加が難しかった層へのアプローチが進み、アクセシビリティの向上という観点においても着実な成果を上げた。 一方で、リピーター率や U-25 チケット販売割合、一部事業における交流創出や参加意欲の指標においては、目標未達または事業間のばらつきが見られた。これらは、対象とする参加者層の特性や事業内容の違いに起因する側面が大きいものの、今後はターゲットに応じたプログラム設計や広報戦略、参加者同士の関係性を促進する仕組みづくり等を一層強化し、より安定的かつ効果的な成果の創出を図る必要がある。 以上より、本事業は総体として高い成果を上げ、地域における文化芸術活動の活性化および裾野の拡大に大きく寄与したと評価できる。今後は、本事業で得られた知見を踏まえ、より多様な層の継続的な参加を促進するとともに、文化芸術の持続的な発展に資する事業展開を推進していく。

備考